

学校番号	学校名	校長名
15	川崎市立田島小学校	中原 義郎

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○よく学ぶ子 様々な場面で活用できる基礎的・基本的な知識や概念を育てる。 ○思いやりのある子 多様な価値を受容し他者を尊重しながら、共生する態度を養う。 ○たくましい子 自ら社会と関わり課題を見つけ解決し、考えを表現する力を育てる。</p>	<p>○学習の基礎・基本を定着させ、確かな学力を育成する。 ○人権尊重の精神・自己肯定感を育成する。 ○個々への支援を充実させるとともに、全校で個々を支援する体制を確立する。 ○家庭・地域・外部人材の力を活用しながら教育活動を進める。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 指導の工夫改善	指導に関する情報交換ができるよう、学年会を週に一度必ず設定した。また授業を参観し学びあうことを日常的におこなった。	各教員の指導の工夫改善につながった。特に学習時のGIGA端末の効果的な利用についての情報共有が進んだ。	互いの授業を参観し合い学び合うことを継続し、習慣化できるよう努めていく。また校内研修も定期的の実施していく。
2 校内研究の推進	校内授業研では全学級担任が授業を公開し、学習の中で児童の主体的な対話が進む工夫を考え実践した。	児童の対話が活発になり、各教員の指導の工夫を全体で共有することができた。今後は主体性を育む手立てを皆で考えていく。	必要な時間を確保しながら「主体的で対話的な深い学び」を実現するための手立てを考え、校内研究に取り組んでいく。
3 個の取り組みの共有	互いの授業を参観し、話し合う時間と場を計画的に設けた。様々な場面での指導の工夫、改善方法を皆で考え共有した。	各教員の指導の工夫改善が進んできた。今回、学習は楽しいと回答した児童が92%を示した。100%の回答を目指していく。	指導の工夫改善を教員間で話し合う場を、今後も継続して設けていく。過度の負担にならぬよう、時と場と内容を精選する。
4 安心できる学級づくり	担任だけでなく全体で児童を支援するために、指導に関して情報共有する場を適宜設け、学校全体で組織的に指導にあたった。	アンケートの結果、98%の児童が安定した気持ちで学校生活を送っていることがわかった。今後も取り組みを徹底していく。	児童の状況に応じて、指導に関する情報共有を迅速におこない指導していく。組織対応の必要性を、全体でより理解していく。
5 適切な指導と評価	児童を認め、児童の良さを伸ばすための指導と評価の校内研修を定期的実施した。各教員の取組の工夫を全体で共有した。	指導と評価の一体化の重要性を教員間で再度確認できた。今後も主体性、自己肯定感を育てる指導と評価に取り組んでいく。	校内研修は今後も定期的実施していく。若手教諭が増えているので、具体的な事例をもとにした研修内容も扱っていく。
6 細やかな観察と情報の共有	児童支援の際には、全体で支援方法等を共有し、組織的にこなう必要性を繰り返し確認した。また組織的な支援を徹底した。	87%の保護者に、子どもは楽しく学校生活を送れていると回答していただけた。より統一された組織的支援をおこないたい。	個々の教員が問題を抱えないよう、組織的に児童を支援する必要性を、今後も機会をとらえて繰り返し全体で共有していく。
7 指導体制の工夫	授業、行事で専科、交換、合同等、多くの指導体制を取り入れ、各教員がより多くの児童と実際に関わる機会を増やした。	担任以外の教員と関わりを持たせたと回答した児童は80%だった。多くの教員が多くの児童と関わる機会を一層増やしていく。	学年内にとどまりがちな指導体制の工夫を、他学年と協力した工夫へと広げていく。取り組みを保護者へ一層伝えていく。
8 COを中心とした組織的な個への支援	教員の欠員状況が続く中ではあったが、支援教育COを中心に支援体制を整えた。個々の児童への支援を進めた。	児童個々の求めに応じた支援をおこなうことができた。支援COを中心とした組織的な支援を実施することができた。	市教委へ要望し欠員状況が起きないようにしたい。人員を適切に配置し、個々の児童への支援を充実させていく。
9 児童特性の共通理解	各教員の指導能力の向上のために、児童の特性に応じた指導や支援の方法の校内研修を計画的に実施した。	児童個々の特性を考えながら、支援が実施されるようになった。教員間で、特性に応じた支援に関する情報交換が進んだ。	特性の理解、特性に応じた支援方法の研修は継続する。児童に関する情報共有の場も定期的設定していく。
10 外部教育力の活用	地域・保護者・外部講師と連携、協力して、児童との交流も深めながら、学習や行事などの教育活動を進めた。	外部の力を活用していると77%の保護者が回答した。連携、協力している取組を更に知らせていきたい。	学校全体、各学年の取組の様子を学校・学年便り、学校報告会等で伝えていく。連携、協力する活動の内容も広げていく。
11 活動の精選	時期、時間、範囲、内容などの観点で、これまで実施してきた活動の修正をおこなった。連携と協力の仕方を検討した。	従来通りに継続する活動、内容や連携の仕方などを修正する活動、新たな連携に変更する活動など、明確にすることができた。	今年度精選した活動を、児童の関わりに対応しながら実施していく。年間を通して修正すべき点を見つけていく。
12 外部人材の発掘	複数の学年で、新たな地域・保護者・外部講師との連携、協力した活動を実施することができた。	81%の児童が、学校の教員以外からも教わることをできたと回答した。新たな連携、協力関係を探していく。	児童の関わりを増やすため、今後も様々な機会をとらえ、多くの方に学習活動への協力をお願いしていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○授業参観では、明るく楽しそうに学習している児童の姿をみることであった。先生方がいねいに児童とやり取りしているので、安心して参観することができた。 ○多くの児童がしっかりと挨拶をしてくれているので、今後も指導を続けてもらいたい。いじめを防ぐためにも、相手に向ける言葉の大切さについても指導してほしい。 ○学校との連携、協力をこれからも大事にしたい。</p>	<p>○昨年度に引き続き、四つの重点目標を設定し学校運営を進めてきた。学校評価アンケートの結果から、重点目標達成のための取組に対して、保護者・児童から一定の評価が得られたと考える。外部の力の活用については、16%の保護者がわからないと回答しており、学校の取組が十分に伝わっていないと考える。今後は様々な場で伝えていきたい。なお四つの重点については次年度も継続する。 ○組織的な支援体制の構築については、教職員の共通理解が進むなど、一定の成果が見られるようになった。情報共有の仕方、支援方法の確認等の課題には今後も取り組む。</p>